

校長会報

第 134 号

発行所
宇都宮市立昭和小学校
栃木県小学校長会事務局
発行責任者
大豆生田 将
印刷所
株式会社宮本印刷

主張「大量退職の時期に思うこと」

栃木県小学校長会副会長 大関 馨



十一月二十七日に開催された、県教頭会研究大会に出席する機会があった。私の参加させていただいたのは、「組織・運営に関する課題」の部会であったが、中学校の部会から、ミドルリーダーの育成についての取り組みの例が、発表された。教員の大量退職を迎えている学校において、ミドルリーダーの育成は急務であり、そのために教頭とし

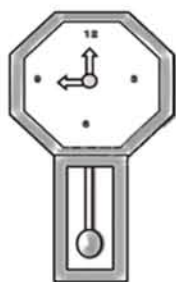
てどう関わり、育成していくかという視点での発表であった。私の勤務する芳賀地区でも、教員の大量退職の時期を迎えており、同様の課題がある。

学校経営は組織を通して機能し、その目的が達成されることになる。学校力を高める組織マネジメントの力量を発揮するための鍵を握るのは教務主任をはじめとする主任クラスであり、ミドルリーダーの果たす役割が重要である。校長としても当然、教頭と共にミドルリーダーの育成に取り組んでいかねばならない。その発表の中で、「教員文

化伝達のための活用」ペタリンから若手へ」というシートを使って、若手を育てていくという取組があった。長年培ってきた教員の知識や技を次の世代に伝えていくということである。

「徒然草」の第百五十五段に「・・・木の葉の落つるも、まづ落ちて芽ぐむにあらず、下よりきざし、つはるに耐えずして落つるなり。・・・」という一節がある。後輩に十分に力をつけ、バトンを渡すことができたかどうか。退職を迎えようとしている現在、自分の取組を反省するばかりである。

(真岡市立真岡小学校)



主張「会運営にあたり」

栃木県小学校長会副会長 川原 良明



今年度副会長として会議等に参加する機会を幾度も得、多くのことを学んだ。本来なら会員になった時点から組織や事業内容予算等に関心をもち、一会員としての役割をもっと果たすべきであったと反省している。これは本会ばかりではない。〇〇会と称されるいろいろな組織に対して同じである。しかし、多数の組織になれば役員等でない限り積極的になれないのも現実である。

今回予算編成作業に関わった。会員として御理解いただきたい次年度予算案について紹介したい。基本方針を、今後益々会員数が減り収入が減少すること、平成三十三年度関プロ栃木大会を控え多額の貯えの必要性がでてきたことから、支出全般にわたり支出改革の取組強化とした。まず「本会計」である。二万二千

五百円の年会費で、研究、会議、事業、事務、負担金が主な支出である。冊子等の印刷費の大幅削減、地区研究大会費の予算措置変更、全国・関プロ大会への参加費補助の減額を主に行なった。次に「運営拠出金」である。本会の主体的活動の充実強化を図ることを目的に平成十一年から始まり、新会員時の一万円が本会計補助と各地区研修費として使われてきた。将来赤字にならぬよう支出の大幅削減を行った。もう一つは、栃小教研会員にはほとんど周知されていない「研究大会運営基金」である。四千円の年会費で、本会と栃小教研の全国・関プロ大会を補助するために平成五年度から設けられたものである。これも将来を考えた、大会補助を見直し減額していくことにした。

会費を納めることは会員としての資格を得ることである。目的に沿ったよりよい運営ができるようみなで知恵を絞り、名案を出していきたいものである。

(那須烏山市立七合小学校)

栃木県小学校長会中央研究大会

大会主題「新しい知を創造し

豊かな心をもった子どもの育成を

目指す学校経営の推進」

研修部長 矢田部 芳仁

七月七日、栃木県総合教育センターで開催された。

一 開会

○開会の言葉

小池正勝 副会長

○会長あいさつ

大豆生田 将 会長

○来賓あいさつ

古澤 利通 県教育長

二 研究発表1

◇発表内容(一部略)

「学校経営ビジョンの具現化を図るミドルリーダーの育成」

◇発表者

上三川町立上三川小

校長 柳澤 邦夫 先生

◇発表内容(一部略)

1 はじめに

学校は、社会等の急激な変化の中、様々な課題への対応が求められている。課題への対応に当たっては、学校は組織力を発揮し、独

・自己実現力
・安全・危機管理能力

3 研究の内容

①個人資質の向上を図るための育成の3視点と手法
・育成のための3視点
・人・法・金を意識する
・育成の手法

②個別の指導・全体の指導
・グループ協議・研修組織の見直し

③校長のミドルリーダーへのアプローチや教職員評価制度の活用等

④ミドルリーダー育成の試み
・対象職員の選定と指名
・学び合いの場の設定

⑤地域連携教員による学校行事の実践と地域の連携

⑥ミドルリーダーの育成
・同僚性を生かす活動実践
・職員集団づくり

⑦職員全員をミドルリーダーとして育成
・学校経営ビジョンの周知と徹底

・教職員との対話の重視

④ 研究のまとめ
・ミドルリーダー育成に主眼を置き、学校の体制・組織づくりを進めたことにより、ミドルリーダーの意識が高まり、それが学校の組

織力の向上につながった。
②校長が目標を示唆し、協働や共助の精神を培い、互いに認め合い、気持ちよく働ける組織を作っていくことが人材育成を進める上で効果的であった。

③ミドルリーダーの育成には、本人の負担も考え、計画的・継続的に取り組むことが大切である。

三 研究発表2

◇研究テーマ

「心と体の健やかな成長を目指す食育や健康教育の推進」創意ある教育活動の展開を通して」

◇発表者

市貝町立市貝小

校長 齋藤 澄恵 先生

◇発表内容(一部略)

1 はじめに

近年の社会環境等の変化は、子どもたちの心身の健康に大きな影響を与え、体力・運動能力、保健、安全、食等に関わる課題への対応が求められている。

芳賀郡市小学校長会は、家庭や地域社会と連携しながら、児童の健康意識を高め、心と体の健やかな成長を目指す食育や健康教育を推進するため、校長として

果たすべき役割と指導性について研究を進めた。

2 研究の概要

①校長に求められる指導性
・学校経営方針への明確な位置付けと教職員の参画意識の高揚

・健康教育に対する児童・家庭・地域の実態把握
・教職員の指導力の向上を図るための指導・助言

・体験的な活動の場の位置付けと児童が主体的に活動するための環境整備
・教育課程実施状況について、PDCAサイクルを生かした実施状況の把握と改善

・家庭や地域・医療機関等との連携推進

②特色ある教育活動の実践事例
ア 体力づくりに関する指導

○体育科授業の充実
・新体力テストの結果を活用した実態と課題の把握、指導の重点化

・準備運動や補強運動の工夫

○体育科授業以外での取組
・体育集会の工夫やマラソン・縄跳びカードの活用

・業間や昼休みの外遊びの

- 奨励、共遊の場の設定
- 家庭・地域との連携
 - ・授業への学校支援ボランティア等
 - ・健康の保持増進に関する指導
- 学校保健全体計画や年間指導計画の点検・充実
 - ・養護教諭や外部講師とのTTによる指導の計画的な実践
- 個別指導の充実
 - ・健康診断の実施後に、生活習慣の改善に関わる継続的な個別指導の実施
- 家庭や地域、医療機関等との連携
 - ・関係機関との連携による保健指導
- ・学校保健委員会の内容や持ち方の工夫
- ウ 安全に関する指導
 - 学校安全全体計画や年間指導計画の点検・充実
 - ・危機管理マニュアルの整備と周知
 - 各種避難訓練の計画的実施
 - 登下校指導の充実
 - エ 食に関する指導
 - 給食の時間の工夫
 - アレルギー児童への対応
 - ・食物アレルギー対応マニュアルの作成と共通理解

・エビペン使用実習を含む研修内容の充実

○家庭・地域との連携

3 まとめと課題

次の三点について研究を深めていきたい。

①児童の実態や保護者、地域の願いを勘案し、学校経営に基づいた明確な方針を示すこと

②PDCAサイクルの中で適切に対処できるよう担当職員を中心に、適宜指導・助言を行うこと

③様々な人とのパイプ役として、家庭や地域、関係機関へ情報を発信し、実態や課題に応じた連携先の選択と連絡調整を積極的に推進すること

四 講演会

○講師紹介

大関 馨 副会長

◇演題

「互いを敵とみなさない
難しくなる保護者対応
で、学校が配慮すべきこと
と、してはいけないうこと」

◇講師 大阪大学大学院教授

小野田 正利 先生

◇講演内容

(1)保護者のクレームの傾向とその背景

(2)対応の難しいケースのビデオ視聴と課題の検討

(3)教師としての生き方(普通の先生が「普通」に頑張ることの大切さ)

講演概要については、平成二十八年三月発行の『小

〰〰〰 析の葉 〰〰〰

「児童生徒一人一人の学力向上に向けて」

栃木県教育委員会

県教育委員会では、児童生徒一人一人の学力向上を図るため、これまでの学力向上に向けた取組を更に充実させた「とちぎっ子学力アッププロジェクト」を、平成二十六年年度から推進しています。

この二年間で、本県初の悉皆による学力調査である「とちぎっ子学習状況調査」を始め、学力向上アドバイザー派遣事業や調査結果活用研修会などの事業を軌道に乗せることができました。これも、本プロジェクトの趣旨を踏まえ、各事業に真摯に取り組んでくださった校長先生方、各学校、各市町教育委員会の御理解・御協力の賜物であり、厚く御礼申し上げます。

学校長研修記録五五』に掲載

○謝辞

川原 良明 副会長

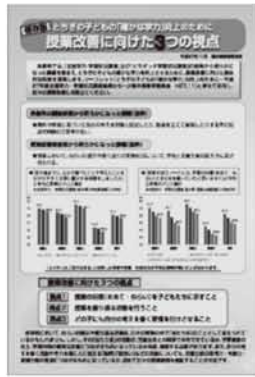
○閉会の言葉

小池 正勝 副会長

しては、昨秋、県内三会場において「パワーアップ講座」を緊急に実施した他、「ねらいの提示・振り返る活動」と「自分の考えを書く活動」を適切に位置付けた授業づくりを、全県で推進するため、リーフレット「授業改善に向けた三つの視点」を作成し、全教職員に配付しました。

さらに、三月、四月は、年度の切り替えで忙しくなりますが、この期間にも学習への意識が途絶えることのないように、一年のまとめや次年度の始まりに向けた各学校の取組に役立てていただくよう「パワーアップシート」などを作成しました。

今後県教育委員会として様々な支援を行って参ります。引き続き校長先生方におかれましては、子どもたちの学力を向上させるため、配付された資料等も効果的に活用し、自校の取組を充実させていただければ幸いです。



地区だより

●〔宇都宮地区〕●●●●●●●●●●

本地区では、研究主題を「新しい知を創造し豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進」とし、研修を進めた。

学校経営、危機管理、人事などの10のテーマに沿った班別研修を中心に行い、各学校における様々な取組について紹介し合い、協議する中で、成果や課題を共有することができた。

また、十一月には、市教育センターで上三川地区校長会との合同研修会を実施し、独立行政法人情報処理推進機構・技術本部セキユリティセンター調査役の加賀谷伸一郎氏から「スマートフォンやSNSに関するトラブルの現状と注意点」と題して講話をいただいた。

二月には、班別研修の集大成として各班の研究発表

を予定している。

●〔上三川地区〕●●●●●●●●●●

本地区では、研究主題を「確かな学力の育成を目指す特色ある教育活動の推進（学校経営の在り方）」

町内児童の学習生活状況等の分析」として研究を進めてきた。調査は「とちぎっ子学習状況調査」を活用し、児童の学習状況を全

町的に把握し、学力と学習環境・習慣等との関連を探究した。町内学力上位層児童と下位層児童のデータを

集積し、特に顕著な差が見られる項目について抽出・分析を行った。研究を通して、確かな学力づくりに向けた授業の改善点や家庭との

連携に向けた方策等について、思慮を深めることができた。今後、結果を基に、確かな学力の育成に向けた検証や改善等の具体的な取組を進めることとしたい。

●〔上都賀地区〕●●●●●●●●●●

本地区では、研究主題を「新しい知を活かし豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進」と

し、鹿沼市、日光市の二市で連携し、研修を進めてき

た。

鹿沼市では研究テーマを

「様々な課題に対応し、生き生きと活動する子どもの育成を目指す学校経営の推進」、また日光市では

「校長としての資質の向上と様々な課題への対応」と掲げ、研修を進めてきた。

全体研修会では、六月に「これからの時代に求められる資質・能力について」と題して、国立教育政策研

究所教育課程研究センター学力調査官の西川さやか先生による講演を行い、一月には、二つのテーマで班別協議に取り組んだ。

●〔芳賀地区〕●●●●●●●●●●

本地区では、研究主題を「学校力を高める教師の指導力・組織力の向上」とし、校長に求められる指導

性について、その実践例や成果・課題を含めた研究を進めてきた。

九月には各校での取組を持ち寄り、班別協議を通して意見交換を行い、見識を高めてきた。

「学校の組織力」や「教師一人一人の力量」の向上を図ることは、学校経営の

成否を握る大きな二本の柱であることから、各学校において校長の指導の下、意

図的、計画的、継続的な取組が大切であることを確認することができた。また、

各学校の特質や課題はさまざまであり、実情に応じた取組を学び合うことができたことは有意義であった。

●〔下都賀地区〕●●●●●●●●●●

本地区では、研究主題を「新しい知を活かし豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進」

と、学校を生きかしながら、と、研修を推進した。

各学校の特色ある実践例を持ち寄り紹介し合う中で、「校長のかかわり」を中心に協議しながら、学校経営における意識をより高めてきた。

十一月には野木町代表が今年度の研究成果を発表するとともに、課題について熱心な議論がなされ成果を確認することができた。

また、JR東日本テクノハートTESSSEIおもてなし創造部、平野健太郎様より「仕事への誇りと感謝の心を育てるTESSSEI

の人材」と題して御講話をいただいた。

●〔下野地区〕●●●●●●●●●●

本地区ではこれまで「新しい知を活かし豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進」と研究主題を設定し、校長の立場を踏まえた人間学として、

また、各校で具体目標の実現を目指すと共に市全体の教育力の向上につながる研修を目的として、研究を進めてきた。

六月には上三川小学校校長柳澤邦夫氏による「情報モラル」の講演会を開催し、

今の子どもが直面している様々なネットトラブルについて、実際にスマートフォンを使って具体的な事例に基づいて御教示くださり大

変有意義なものとなった。

十一月には各校の実践発表を行い、学校経営について互いに協議し学び合うことで共有化が図られた。

●〔小山地区〕●●●●●●●●●●

本地区では、小学校長二十七名がAB二班に分かれ、A班は「新しい知を活かし豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営

豊かな心をもち、輝いて生きる 子どもの育成を目指す学校経営

体験することの大切さ

体験が人をつくる

大田原市立福原小学校 荒井 清之

「豊かな心をもち、輝いて生きる子ども」を育てるために、本校では、体験活動を重視している。

特に、五感に強く訴え、心を揺さぶる直接的な体験活動の充実に努めている。

その機会として様々な学校行事を実施しているが、それらの中で、とりわけ有意義であった二つの活動を紹介したい。

一つ目は、国蝶オオムラサキの飼育。

学校の近所にある自然観察館の厚意で、オオムラサキの飼育に挑戦した。

子どもたちは、クラスごとに提供された幼虫に名前をつけ、毎日観察記録を綴った。

幼虫からやがて蛹へ、運良く羽化にも立ち会うことができた。その瞬間の目の輝き、そして、歓声。一人一人が、命の不思議さと大切さを身

もって実感した瞬間だった。

六月二十三日は、放蝶会。「さようなら、元気でね。」名残を惜しむ子どもたちの声が里山に響いた。

二つ目は、イナゴ捕り。九月二十九日、全校児童三十名と教職員、保護者の方々と地域のおじいちゃん・おばあちゃんを交えてイナゴ捕りを行った。

刈田のあちらこちらから、「つかまえたー」、「もう十匹目だー」等々の叫びがあがる。おじいちゃんたちからコツを教わっている子もいる。

私自身もついつい夢中になってしまった。何十年ぶりの体験だろう。

つかまえられたイナゴは、後日、佃煮となってみんなの胃袋に収まった。自分たちが捕らえたイナゴを口にするこ

とで、子どもたちは、他の命

に支えられて自分の命のあることを学んだことだろう。

自らの体験を通して、その体験が血となり肉となり、心豊かで、世の中をたくましく生き抜く人が育つ、と私は信じている。



イナゴ捕り

やさしくかしこくたくましく

互いのよさを認め合い高め合う

学級集団作りを通して

宇都宮市立御幸小学校 齋藤 恵美子

本校は、平出工業団地の西に隣接する学校で、児童数四百三十七名の学校です。児童は、明るく素直でやさしい反面、人との関わり方、自分の思いや考えを伝えることに苦手意識をもっているため、近年、学級経営を基盤に課題に取り組んできました。その教育活動の一端を紹介します。

本校は、平出工業団地の西に隣接する学校で、児童数四百三十七名の学校です。児童は、明るく素直でやさしい反面、人との関わり方、自分の思いや考えを伝えることに苦手意識をもっているため、近年、学級経営を基盤に課題に取り組んできました。その教育活動の一端を紹介します。

Q-U調査や日常の児童観察から、課題を見つけ、方策を練り、ブロック会で検討をし、学級経営案に反映させる。実践する(具体例)

- ① 全校体制での取組
 - ・学校のルールの徹底(挨拶の習慣化・規範意識の育成)
- ② 各学級での取組
 - ・学習形態の工夫(学年学級の実態に応じた、より効果的な学び合いの場の設定)
 - ・伝える力の育成
 - ・よさを認め合う活動
 - ・ピアタイム(関係づくりのためのロールプレイング、SST、SGEなど)
- ③ 情報交換
 - ・トーキングタイムの設定

(メンバーを入れ替えて、学級経営の様子、児童の様子を自由に語り合う)

検証する

- ・児童の意識調査(年三回)
- ・Q-U二回目(十一月)
- ・学校評価(十一月) 他
- 各データや日常の観察、情報交換で得たことをもとに、具体策の再検討、次年度の取組について随時検討改善する
- ・改善策で実践可能であれば即実践
- ・次年度の取組を練る

学級づくりは環境づくりです。児童が安心して学習でき、自分や友達のよさに気づき、前向きに活動できるような居心地の良い学級集団をつくる。そんな学級の中で、子どもの自尊感情を高め、協働する楽しさを味わわせ、未来に生きる力を育てたい。そう願って、全教職員心を一にして、日々実践を重ねています。



友達と一緒に考えて言葉を選ぶ

特色ある学校づくり

豊かな人間性の育成を めざした農業体験学習

鹿沼市立西小学校 鈴木康夫

本校は、市役所から西に約3kmの所にあり、学区は、市街地西部の住宅地と、清流で知られる大芦川に沿う南北に長い地域からなっています。「山と清流と田園風景」といった豊かな自然環境が自慢の学校です。

児童数はここ数年二百人前後で推移しており、その約半数がスクールバス通学です。保護者は教育に対する関心が高く、学校の教育活動に大変協力的です。

本校の特色ある教育活動は、「地域と連携した農業体験学習」と言えます。教育目標の理念である「知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健やかで、心豊かな子どもを育成する。」を踏まえ、農業体験学習のねらいも設定しました。

① 協力することの大切さを学び、協調性や連帯意識に基づくより良い人間関係づくりを行う。

② 地域を知り豊かな自然と触れ



学校農園活動

あうことで、郷土を愛する豊かな心を育む。

③ 農業を体験することで、粘り強くやり抜く態度を育て、自尊心を高める。

このねらいのもと、体験活動と各教科・領域・道徳等の学習内容に関連づけ、学校教育目標である「自ら学ぶ子」、「心豊かな子」、「健やかな子」の実現を目指しているところです。

主な活動は、大きく三つです。約千五百㎡の広大な農園で、春先から初冬まで多彩な作物を作る「学校農園活動」。地域の協力者の御指導で田植えから脱穀まで行い、わら鉄砲も作る「チャレンジ米づくり」。そして会食して収穫を喜び、学校に関わる全ての支援者への感謝も表す「収穫祭と感謝の会」です。

これら全ての活動には、学校、家庭、地域が関わり、児童は多方面の多くの方々に支えられていることを感じ取りながら成長します。

今後、地域の教育力を学校経営に生かし、地域に根ざした豊かな教育活動を展開することで、児童の調和のとれた成長を促していきたいと思っています。

「あせをかけ」の活動を通して

佐野市立犬伏東小学校 増田博

本校は、佐野市南東部に位置し、佐野SA近くの児童数三七二名の学校です。

本校の教育目標は、「自ら学び、心豊かで、たくましく生きる児童の育成」です。目標達成のための合言葉を、「あせをかけ」として活動しています。

① あいさつ（基本的生活習慣の育成）② せいそう（勤労意欲の育成）③ おもいやりの気持ちをもつ（豊かな心の育成）④ かんがえる（確かな学力の育成）⑤ けんこう（健やかな体の育成）の五点に取り組んでいます。

昨年度に三か年の佐野市人権教育の研究校に指定され、本年

度から文科省より二か年の研究指定を受けたことから、特に③のおもいやりの気持ちをもつ活動に力を入れています。

保護者アンケートからも、人権教育に対する期待が大きいことが分かり、研究主題を「互いの大切さを認め合い、自信をもつていきいきと活動する東っ子の育成」としました。

ア 東っ子祭りの実施
ウ オークラリー、学習発表会、授業参観の三部で構成されています。

ウ オークラリーでは、異学年でグループを作ることで、リーダーシップとフォローシップ



県指定無形民俗文化財
宮比講神楽

を育てることを目標にしました。

学習発表会では、学級・クラブ・部活動の発表を行いました。

クラブの発表では、県指定無形民俗文化財になっている宮比講神楽も披露しました。

授業参観では、人権教育に関する授業を行い、保護者への理解を図りました。

イ なかよし班活動
縦割り班で、自分たちで計画を立て異学年の友達と一緒に遊びます。校庭や教室で楽しそうに遊ぶ姿が見られました。

ウ 環境活動の実践
全校エコ活動（EM活動、リサイクル活動等）を実践しています。

これからも、日々の教育活動の充実を根底にしながら、「あせをかけ」の実践に努力したいと思っています。

話題の広場

支えられて

真岡市立中村南小学校

長谷川 直人

本校の名物行事の一つが秋の「わくわくフェスティバル」です。生活科発表会と学習発表会と収穫祭を兼ねたような行事です。各学年とも知恵を絞り、劇・ダンス・合奏などの発表を準備します。

保護者と家族の他、普段お世話になっている学校支援ボランティア等の皆さんも招待します。今年度は全児童数六十八名に対し、招待者五十二名でした。本校は、読み聞かせをはじめ、たくさんの人々の善意に支えられている学校です。

発表会后、会食となります。提供する煮いもと豚汁の材料のダイコンなどの野菜は、ボランティアの支援を受けて、子どもたちが農園で育て、調理します。調理は職員と子どもたちだけでやります。

ところが、これで終わりはありません。何と「裏メニュー」があるのです。会食中の職員のオンステージです。今年は女性陣のダンス（教頭先生がセンター！）、男性陣のひげダンスパフォーマンス、校長は子どもたちと皿回し。お互いに秘密で練習しました。

本番は拍手喝采で時間オーバーでした。保護者、地域の皆様が皆で支えてくれる学校が、中村南小です。感謝です。

小規模校だからこそ

下野市立細谷小学校

上野 一成

下野市にある細谷小学校は、小規模特認校の指定を受けてから、十数年が過ぎている。児童数のめざましい増加はないが、現在三十七名のうち七名の児童が特認校制度を利用して通っている。現在は複式学級の解消を目指し、少ない人数をメリットと考えた学校経営を行っている。

少ない人数だからこそできること、それは体験活動である。人数が多いとつい代表児童とか選ばれた学級とかになってしまいが、本校では全員参加が当たり前である。

高学年の担任から調理実習の相談を受けた。そば打ちを体験させたいので指導してほしい。幸いなことにそばアレルギーは一人もない。

ついその気になって、五・六年生十名とそばを作って食べてしまった。子どもたちは高学年になるとそばを学校で作って食べると決めたしまった様子。

少ないからこそ対応できるので、楽しい行事ができてしまった。二年目の今年は去年よりも手際が良くなった子どもたち。太さや長さはどうでもいい、自分たちで作ったという満足感を味わっていた。



事務局だより

各地区からの要望や提案を総務部でまとめ、八月の県教委との教育懇談会で、重点を絞って協議しました。結果については、十月の理事研修会で報告しました。

校長会HPは、簡単にログインできて、他地区の情報更新が一目で分かるように改善しました。HPで、情報交換がより一層できるようになりましたので、御活用ください。

編集後記

全連小・山口大会参加では、出発数日前に割引航空券の空席をネットで見つけ、往復利用しました。新幹線運賃と同程度（それ以下もあり）で、

大手航空会社の便の場合もあります。払戻可、別便変更不可のようです。新幹線も早割など格安運賃があります。交通手段・運賃など、よく調べ

今年度の大きな大会は、全連小が山口大会、関プロが新潟大会でした。関宮・上三川地区の柳澤邦夫先生・芳賀地区の齋藤澄恵先生が、地区での研究の成果を分かりやすく発表してくださいました。

会員の減少などで、予算の執行が非常に厳しい状況です。事業の検討と執行の工夫が必要になってきている現状です。

年度末にあたり、健康に留意され、御活躍ください。（事務局長 野中 政治）

価値あり、と感じました。文科省講話では、指導要領改訂の方向性、「どのように学ぶか」学びの質的転換など勉強になりました。

御多用の中、本号へ玉稿をお寄せいただきました会員の皆様に、心より感謝申し上げます。

（那珂川町立馬頭西小学校

吉澤 卓）